

- 平成31年4月より、都立（総合）精神保健福祉センターを東京都における依存症相談拠点として設定
- 主な取組状況等は、以下のとおり

1 相談支援

○アルコール相談件数の状況

（単位：件数）

（月報（福祉・衛生行政統計）より）

令和4年度	令和5年度	令和6年度 ※
1,152	1,096	1,041

※ 令和6年度は1月分までの集計結果である。

○本人・家族等からの主な相談状況（令和5年度）

No.	相談内容	対応経過
①	・コロナ以降、在宅ワークで飲酒量が増加し、家族が相談来所	・家族講座への参加とともに、家族向け自助グループ等を紹介
②	・かかりつけの内科医からの紹介。夜勤中心となり、昼間眠れるように飲酒が習慣化。専門医療機関に入院するが、退院後は通院できていないことから、本人及び家族相談来所。	・専門医療機関や自助グループに関する情報提供。また、家族には家族講座を案内。
③	・以前から精神疾患があったが、飲酒の問題もみられるようになった。主治医の勧めもあり、保健所の紹介で本人相談来所。	・物質使用障害治療プログラムを紹介。また、通院や地域生活支援センターなど他の社会資源を使いつつ、断続的に個別支援を実施。
④	・飲酒でトラブルが生じ、会社から、通院・回復プログラムへの参加を促され本人が相談来所。	・回復プログラムへ参加
⑤	・近年酒量が増え、記憶をなくす、暴言など問題行動も見られるようになったため、家族が相談来所。	・家族講座を受講。また、地域保健センターへの相談につながるよう支援。

2 グループワーク

○アルコール関連のグループワークの状況

- ・センターの回復プログラムや家族講座への参加状況は次のとおり。

令和4年度	令和5年度	令和6年度 ※
232	245	233

(単位：回数) (月報（福祉・衛生行政統計）より)

※ 令和6年度は1月分までの集計結果である。

※グループワーク…家族講座、回復プログラム等
アルコール関連…アルコール、ギャンブル等、その他アディクション

3 研修

○依存症支援者研修事業

- ・令和3年度より、区市町村等の職員を対象に、依存症の方等に対する支援を行う人材を養成することを目的とした依存症対策総合支援事業に基づく「依存症支援者研修」を実施

《 依存症相談対応研修 》

- ・相談支援経験のある関係機関職員（行政機関職員、医療機関職員、教職員等）を対象にスキルアップを目的として実施
【令和5年度開催実績】 精神保健福祉センター（令和5年12月18日）

《 地域生活支援研修 》

- ・関係機関職員（行政機関職員、医療機関職員、教職員等）を対象に依存症に関する基本的な概要や支援に関する知識の伝達を目的として実施
【令和6年度開催実績】 中部総合精神保健福祉センター（令和6年12月3日）

※アルコールに関するもののみ記載

4 普及啓発

○依存症対策普及啓発フォーラム

- ・ 依存症に関する正しい知識等に関する情報発信等を行うため、都民の方等を対象とした「依存症対策普及啓発フォーラム」を実施
- ・ アルコールのほか、薬物やギャンブル等依存症も含めたテーマで依存症に関する情報を発信
(令和5年度においても会場とオンラインの併用で開催)

《 令和5年度の実施内容 》(参加者：370名)

【基調講演テーマ】

- ◆ お酒を上手に減らす工夫～アルコール低減外来の取組から～
(筑波大学 吉本 尚)

【トークショー】

- ◆ しらふで生きる、ということ
(小説家 町田 康 / 国立精神・神経医療研究センター 松本 俊彦)

【トークセッション】

- ◆ もし「依存症かな？」と、気になったら
(筑波大学 吉本 尚)
(国立精神・神経医療研究センター 松本 俊彦)
(板橋区健康生きがい部)
(特定非営利活動法人ジャパンマック事務局長 成宮 康彦)
(都立中部総合精神保健福祉センター 菅原 誠)

《 依存症対策フォーラム チラシ 》

令和5年度東京都依存症対策普及啓発フォーラム 東京都福祉局

「依存症かな？」と、気になるあなたへ

12/08
12:30 開場 13:00～16:50

参加無料 オンライン or セッション杉並 ホール
オンラインとセッション杉並のいずれかをお選びください。

定員 400名
要申込 12/1(金) 締切

都内在住・在勤・在学の方なら、どこでもお申込みいただけます。
申込多数の場合は抽選となります。

セッション杉並 ホール
杉並区梅田 1丁目2番32号
東京メトロ丸の内線「東大町駅」徒歩5分
「新大塚駅」徒歩7分

フォーラムのご案内
依存症は、薬物・アルコール・ギャンブル等といった様々な種類の対象があり、とても身近な病気の一つです。この病気では、依存対象の摂取や行為をコントロールしにくくなっていきます。そのため、早期の発見と治療や支援により、大切な人との関係や健康を守りながら、回復を目指していくことが重要です。
今回のフォーラムのテーマは、「『依存症かな?』と、気になるあなたへ」です。
ご自身や身近な方が「ちょっとしたら依存症かもしれない」と気がかりな方に、早期発見や早期介入の意義と方法についてお伝えしていきます。基調講演では、お酒の飲み方について気軽に相談できる外来を目指す、貯蔵量低減外来の取り組みについて、筑波大学 健康ライフスタイル研究センター 長 総合診療科の松本先生にご講演いただきます。
トークショーでは、芥川賞作家の町田康さんをお招きします。30年間にわたって毎日、お酒を飲み続けていた町田さんの語る「飲まない日々」を、一緒に楽しんでもませんか? 対談者は、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センターの精神科医、松本俊彦先生です。依存症治療や地域の支援者も交えて、トークセッションもいたします。
依存症に悩むあなたなら、どこでもお申込みいただけます。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

01 基調講演
お酒を上手に減らす工夫
～アルコール低減外来の
取組から～
吉本 尚
(総合診療科/筑波大学
健康ライフスタイル研究センター長/
筑波大学医学部地域総合診療学
准教授)

02 トークショー
しらふで生きる、ということ
町田 康
(小説家 芥川賞受賞)
松本 俊彦
(精神科医/
国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究
センター 精神保健研究
部長/
薬物依存症センター
センター長)

03 トークセッション
もし「依存症かな?」と、
気になったら
吉本 尚
(総合診療科/筑波大学
健康ライフスタイル研究センター長/
筑波大学医学部地域総合診療学 准教授)
松本 俊彦
(精神科医/国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究部長/
薬物依存症センター センター長)
板橋区健康生きがい部 (保健所)
(予防対策 企画課)
成宮 康彦
(特定非営利活動法人 ジャパンマック事務局員)
菅原 誠
(東京都立中部総合精神保健福祉センター 副所長)

申込方法(右記のいずれか) ①専用ホームページ ②E-mail ③FAX ④電話

申込先(フォーラム運営事務局) 株式会社ワルファスタイル 〒104-0045 東京都中央区銀座2-12-10 4F TEL 03-6264-0577 E-mail walfastyle@walfastyle.jp FAX 03-6264-0577 URL https://www.walfastyle.com/kyoukyu/kyoukyu.html

お問い合わせ 03-6264-0577 相談は24時間 東京都立中部総合精神保健福祉センター 企画課 担当 03-3302-7702

東京都立(総合)精神保健福祉センターは、東京都精神保健福祉拠点です。詳しくはホームページをご覧ください。
なお、本日のイベントは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、参加人数の制限を設けています。定員を超えた場合は、抽選となります。

○アルコール関連問題啓発週間(11月10日から16日まで)

《 令和6年度の主な実施内容 》

- ◆ LINEやデジタルサイネージ等を活用した情報発信
- ◆ アルコール関連問題啓発セミナー (YouTube)
内容：
 - ・ アルコール健康障害の理解と支援
 - ・ お酒との付き合い方、見直してみませんか?～アルコールと内科の病気
(都立松沢病院)

5 連携会議

- ・医療関係者や行政機関、民間団体等で構成する地域の連携会議を都立（総合）精神保健福祉センターで実施し、関係機関の連携強化を図る

◆ 中部総合精神保健福祉センター

- ・令和7年2月4日
：医療機関・民間団体等におけるアルコール健康障害の取組等を紹介

◆ 都立精神保健福祉センター

- ・令和5年10月31日
：「顔の見える連携から充実させる依存症支援」をテーマに民間団体の取組紹介、グループワークなど
- ・令和6年9月2日
：「女性と依存」をテーマに、医療機関（内科）・民間団体等の取組紹介、グループワークなど

※ 各センターにおいて、毎年度1回ずつ連携会議を開催。上記はアルコールを主なテーマにしたものを記載

